

平成25年度高砂市文化振興審議会議事録

日 時 平成25年11月20日(月) 13:30～16:00
場 所 高砂市役所南庁舎2階 会議室2

出席委員 田端会長、三井副会長、岩見委員、松井委員、渡邊委員、唐津委員、
高橋委員、森本委員、松本委員

欠席委員 前田委員

事務局 登市長
(健康文化部) 橋本部長、猪子室長、東野課長、福原主幹、前川係長
(教育部) 泉田課長

会議の前に、全員で謡曲「高砂」を合唱。

1. 開会

【司会】 開会に先立ちまして登市長より委員の皆様へ委嘱状を交付します。
市長よろしく申し上げます。

※ 委嘱状の交付

【司会】 ただ今より平成25年度高砂市文化振興審議会を開催いたします。
開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいておりますが本日傍聴希望者はおられません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。
す。

※ 配布資料の確認

【司会】 次に、会議の進行について、ひとこと、お断り申し上げておきます。
この審議会の議事は、会長が議長として進めることとなっておりますが、この度、新たに委員委嘱をさせていただきましたので、会長、副会長が決定されるまで、事務局が会議の進行を行いますので、よろしく願いいたします。
それでは、次第により進行しますので、よろしく願いいたします。

2. あいさつ

【司会】 まず、開催にあたりまして、市長よりご挨拶申し上げます。

(市長あいさつ)

3. 委員紹介

【司会】 どうもありがとうございました。次に、次第の3番目、今回、審議会委員としてお願いいたしました方々につきましては名簿をお配りしております。

この度新たに委員をお引き受け下さった方もいますので、名簿順に自己紹介をお願いいたします。

(委員自己紹介)

【司会】 次に、事務局側を紹介いたします。

(部長より順に自己紹介)

4. 審議会会長、副会長の選出

【司会】 それでは、引き続きまして、次第の4番目、会長、副会長の選出を行います。会長、副会長については、審議会規則第4条に「審議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。」とあります。皆さまの中で互選によって、会長、副会長様の御選任をお願いしたいと思っております。自薦、他薦問いませんので、この場でお声かけをいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】 会長は田端委員、副会長は三井委員をお願いしたいと思います。

【司会】 ただ今、委員から、会長に田端委員、副会長に三井委員の推薦がございました。皆さまいかがでしょうか。ご異論がなければ拍手をもって、ご了承願います。

(「異議なし」の声あり)

(出席者拍手)

【司会】 ありがとうございます。

それでは、会長に就任されました田端委員、副会長に就任されました三井委員は前の席にお移りいただきます。

それでは、会長、副会長に、一言ごあいさつをいただきます。

(会長、副会長 あいさつ)

【司会】 では、ここで市長は所用のため、退席させていただきます。

(市長 退席)

【司会】 本日の会議ですが、出席者9名、欠席者1名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたしまして、次に5の議題に移ります。

では、これより議事進行は、会長にお願いいたします。

5. 議 題

(1) 実施計画の考え方と進捗管理について

【議長】 次第に従って進めていきます。1番目の実施計画の考え方と進捗管理についてです。昨年度から進捗管理について、意見をいただいております。そうしたものを踏まえて、こういう形で考えていると事務局から説明をしていただき、その点について意見や質問を受けようと思っております。事務局からまず説明をしていただきます。

【事務局】 実施計画の考え方と進捗管理について、ご説明いたします。まず、A4の高砂市文化振興基本方針 平成25年度実施計画書をご覧ください。表紙をめくっていただき、目次の次1ページをお願いいたします。第1章の「1 実施計画の基本的な考え方」については、平成24年度の第7回文化振興審議会において説明したとおりで、変更はございません。その下の「2 施策の進捗管理」については前回と評価の方法について変更がございます。今後のスケジュールの表の27年度の欄をご覧ください。26年度の目標に対する評価と25・26年度事業の目的に対する評価と書いております。この表の一番下の米印にあるように目標に対する評価は毎年、目的に対する評価は2年ごとに実施します。この目標に対する評価と目的に対する評価を行う点が変更点でございます。これに関しては、A3の資料平成24年度事業結果・平成25年度事業・平成26年度事業をご覧ください。この審議会の審議の対象は25年度からとなっております、24年度は対象外でございますが、前回の審議会では評価検証の方法が分かりにくいとのご指摘がございましたので、24年度の評価を例として作成いたしました。

24年度の列をご覧ください。表の項目として、番号、担当課、事業の名称、

事業の概要、事業目的、目標、予算、決算、成果・実績、評価、評価の説明があります。このうち後ろ三つの成果・実績、評価、評価の説明はその年度の目標、例えば1番上の高砂学でしたら年10回という目標がありそれに対する成果・実績、評価、評価の説明となっております。2年ごとに行う目的に対する評価は高砂学で言うと、「高砂の歴史や文化に学ぶ機会を設ける」という事業目的に対し評価することとなります。評価についてはS、A、B、Cの4段階で表すこととし、Sは目標以上に実施、目標以上の効果を上げ実施、Aは目標どおり実施、Bは一部目標未達成、目標以下の効果で実施、Cは大部分目標未達成としています。

もう一度、資料A4の25年度実施計画に戻って下さい。

1ページの今後のスケジュールの表ですが、この表のとおり進捗管理をしていき、29年の基本方針の見直しの際には、施策の方向について見直しをしたいと考えております。

次2ページの第2章はこのA3の表の25年度を抜き出したものとなっております。

【議長】 ありがとうございます。評価は色々な仕方があるが、事業評価という方式に則って評価をしていただく。事業評価では、アウトカム評価とアウトプット評価があり、アウトプットというのはここで言う目標になります。年何回事業をしますという目標や予算を達成できたか、アウトカムとは成果というふうに訳すことができますが、それによってどのような成果が上がってその施策の目的である例えば1番であると高砂の歴史や文化について学ぶ機会を設けているということがきちんと達成できたのかどうか。10回行ったが出席状況をみると実はあまり芳しくなくて、10回行ったが本当にきちんと学べるような機会だったのかなという評価をするのが目的に対する評価という考え方です。目標については予算がついているので毎年チェックをしなければならない。目的については年間でなかなか達成でないものもあるので、2年で達成できないものもあるかもしれないが2年ごと位に見直していこうと考えています。このような考え方で進めていこうということでございます。何か今のご説明につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

去年の最終段階で、少し資料が足りなくて、いろいろな委員からこの資料をつけた方がいいということだったので、24年度については参考資料ということをつけています。何かご質問等ございますか。

【委員】 評価のところでS、A、B、Cと四段階ありますが、その説明はどこかに掲載していないですか。口頭だけですか。

【議長】 どこかに掲載しているということではなく、口頭で説明しただけになります。SとAの違いは何かあるのですか。

【事務局】 Aは目標通りということですので、例えば年に目標が10回で、10回実施すればA。回数だけで言うと11回だとSになります。10回行ってもそれ以上に中身の問題で10回にさらにプラスアルファで新たなことができたならSになってくるかと思います。それは担当課の評価になります。

【委員】 目標を定めるときに年に10回だけで成果・実績のところで1,500名が参加したと書いてあるが回数と参加人数は別のものだと思いますが、目標を立てるときに10回それぞれがだいたい何人位という目標が必要になるのではないか。11回、12回行ったけど毎回10人位しか来なければ目標達成にはならないのではないか。

【議長】 このあたりは多分各担当課で作られていると思いますが、その際に作り方としてみれば予算獲得の問題がありますので、人数というより回数が中心になっていると思いますが、先ほど委員のご質問にありましたように、回数だけでなく集客目標数みたいなものも合わせて設定されているのでしょうか。事業はこういうことをしますという目標や予定がたてられているが、事業の目標の中に予定人数も含まれているのでしょうか。

【事務局】 今回は、ほとんどが目標何回、何人というものもありますし、その課によって目標の設定の仕方は異なっています。はっきりと数字で表せないものについては文章でもよい、という説明を各課にしており、各担当課にお任せしております。

【議長】 もし仮に、先ほど委員がおっしゃたように、実際達しているかどうか確認したい、目標はどうだったかとお聞きすることはできますかね。ここには載っていませんが場合によっては、審議会で聞くことができるということでもよろしいですね。

【委員】 載っていないけど、目標のところで10回、成果のところで年10回講座を開催しただけで評価Aになるはずがない。1,500名というのがあるからややこしい。

【議長】 書いてあるとだいたい想像がつかいますが、延べ人数ですがおそらく同じ人を加えているが150人余りの方が1回に来られている。

【委員】 なかなかこのような企画をしたなかで1回目何人、2回目何人とその通り来るのは未知数ですので、全体的な評価としてはこのような評価しか仕方がない。

裏付けとしては必要でしょうね。

【議長】 書いてあることに反対ではないと思いますが、成果で書いてあって目標で書いてないから整合性が合わないのではないかとということをおっしゃっていると思います。場合によっては、お聞きいただければきちんとお答えは返ってくるだろう。

【委員】 書面上、企画したらこうなった。表の出し方は仕方ないでしょうね。

(2) 平成25年度事業について

【議長】 他に何かご意見、ご質問はございますか。よろしいでしょうか。なければこのような方法で事業の評価を進めていくということで、了解をいただいたということにします。では、議題の2番目に移ります。平成25年度事業のチェック、進捗の確認を行います。平成25年度事業についてすべて説明は難しいでしょうから、いくつか説明をお願いしてもよいでしょうか。

【事務局】 まず、25年度事業を説明させていただく前に、今回、お手元に再度A3とA4の資料を置かせていただいておりますが、委員の方からご指摘をいただきまして、変更、訂正をいたしました。まず、資料の変更点、訂正点を説明させていただきます。A3の資料をご覧ください。まず1ページ、上から6段目24年度決算額については、100円となっておりますが100,000円の誤りでした。

次2ページの1段目予算額、決算額が2段書となっており、上段は小学校、下段は中学校の費用となっております。小中と明記させていただきました。学校教育課の費用はこのほかにも2段書のところがございますが、すべて小中を記載しております。

次、5ページの3段目、防火ポスターの成果・実績の97点の点の字が間違っております。

次、同じく5ページの下から2段目、25年度のラトローブ市との姉妹都市交流が漏れておりましたので、記載しています。

次7ページの下から3段目、市内史跡案内の目標が記入されておりましたが、年1回と入れております。

次10ページの1段目、文化まつり事業の目標が17団体となっておりましたが、18団体の誤りでした。

最後に12ページの上から3段目、25年度と、26年度の目標が漏れていましたのでフェイスブックの登録者を目標として記載いたしました。

A 4の実施計画もこれに合わせて変更いたしました。大変申し訳ございませんが、変更後の資料で見ていただくようお願いいたします。

引き続きまして25年度事業について、主なものを抜粋して経過報告をさせていただきます。ここからはA 3の資料をご覧ください。

基本方針では謡曲「高砂」を高砂市を特徴づける重要な文化素材として位置づけていることから、謡曲関連の事業をいくつか行っています。それらを含めて報告させていただきます。

まず、資料1ページの最初1-1-1高砂文化教室「高砂学」につきましては、平成23年度・24年度と2年間、高砂市史編さん専門委員や特別執筆者の先生方に講演をしていただきましたが、今年度より新たに市民を講師として、講座編7回、活動編4回を実施しています。現在のところ講座編は5月～8月までの4回で、合計374名の方が受講されました。講座編では、毎回謡曲「高砂」を謡う時間を設けております。また高砂学の講座生の中から有志を募り、たかさご万灯祭の謡曲発表会に出場いたしました。

活動編では「五社巡り吟行俳句」を6月に実施し、写生を5月と9月、2回実施しました。活動編の作品については、市民ギャラリーあいぼっとで展示する等、発表する場を設けました。

また、この前の日曜日には、活動編のまち歩きで高砂町内を巡り、文化財建造物や史跡を見学しました。高砂歴史ガイドクラブの方に案内していただき、親子での参加も多く、約80名が参加しました。これは7ページの上から5段目、2-1-3の高砂文化教室「高砂学」で記載しております。

次に、1ページに戻っていただいて、上から3段目の「高砂能楽入門」ですが、これは謡曲「高砂」を普及させるための事業として実施した、今年度の新規事業の1つです。年間予定として、こども対象に2回、一般対象に4回、計6回を予定しております。そのうち、こども対象の2回と一般対象の1回が終了し、計30名の小学生と一般の方12名が参加いたしました。今後、一般の方を対象にあと3回実施する予定でございます。

次に謡曲「高砂」関連のもう一つの新規事業として、1ページの一番下「こども狂言ワークショップ」をご覧ください。全8回のうち現在4回が終了し、公私立の保育園幼稚園、計16園の5歳児544名がワークショップに参加いたしました。下半期に残り12園において実施する予定で、市内の全5歳児が謡曲、狂言を体験できることとなります。

「高砂能楽入門」、「こども狂言ワークショップ」の両方ともプログラムに謡曲「高砂」を謡う時間を設けております。

次に同じく1ページの上から4段目、歴史学習会ですが、この学習会の荒井地区は資料14ページの一番上、市民提案型地域協働推進事業「夢のシロ」補助金の制度を活用し、散策マップを作成しております。

次に4ページをお願いいたします。1番下、子育て支援室の新規事業で子育て

応援フェアですが、これは保育園の先生が中心となり実施したもので、対象は主に未就学の児童と保護者で、紙芝居や地域の民話の読み聞かせ等を行い、350名の参加がありました。

次に8ページをお願いします。上から2つ目の市史に関する歴史的資料の収集、保存、整理ですが、米田の西谷酒造が解体される際に、酒づくりの資料を収集したり、高砂町の尾崎邸を高砂やとして改装する際に古文書が400点程出てきており、市史編さんの先生方に確認していただいたりしております。

次に18ページ上から2段目、ご当地グルメの発信ですが、今年は高砂にくてんに加え、高砂あなごのPRに力を入れています。

最後に、今年度初めて、市役所内の文化に関連の深い課が集まり、関係課会議を開催いたしました。文化スポーツ課の方から、文化振興基本方針を策定した経緯を説明したのち、各課の25年度、26年度事業の取組内容について報告等を行いました。担当者が各課の事業について知ることができ、そこから協力、連携できるものを検討する機会になりました。また、この文化振興審議会でもいただいたご意見についても報告いたしました。今後も、こういった協議の場をもち、文化事業を展開していきたいと考えております。

以上で25年度の主な事業の経過報告とさせていただきます。

【議長】 ありがとうございます。全部を説明いただくのも大変なので、かいつまんで説明いただきました。事前にお配りもしていますので、例えばこういうところに注目して意見や質問があるケースもあろうかと思えます。今回25年度ということで、25年度のところを見ていただきながら、ご意見を賜りたいと思えます。先ほどの説明は主に新規事業ですが、24年度では評価が高そうだが、25年度はこの事業は大丈夫なのかというような、いろんな意見もあるかと思えます。何か意見があればお願いします。場所がわかりにくいので、何ページの何番目ということでお願いします。

【委員】 24年度、25年度の進捗に対しての意見です。例えば26年度の中にはないが、テーマとなっている項目について、こういう事業をやってほしいと言ってもいいのですか？

【議長】 今は25年度の評価のほうでこういう成果がでていますが、どう思うかということをお話いただければと思います。26年度は次にやります。

【委員】 1ページの上から4番目の都市政策課のところですが、24年度は関係ないといいながら、3地区を学習会としながら、2地区しか開催していないのに、評価がAということで、25年度はどうなっていくのかということと、また25年度も学習会を設立し、26年度も学習会を設立しとなっている。設立は1回し

かないのではないか。前年度に何らかの成果が出ていれば、目標のほうに随時ではなく、ある程度記載ができるのではないか。

【議長】 いくつかまとめてお願いします。1つずつ答えてもらうよりもまとめてお答えしてもらう。

【委員】 これは答えられる、答えられないということではないですよ。都市政策課のことだから。

【議長】 ご意見として、先ほどいただいた確認をしたい。先ほどおっしゃった表記の問題なのか、学習会を設立しというのは3回出てくるのはおかしいということであれば、表記の問題なのか、それとも実際のことなのか、確認をしたい。おっしゃったように都市政策課ですから、すべてが確認できなければ、後ほど確認するというにしたい。そういう形でよろしいか？

【委員】 はい。2ページ目の上から5番目の学校教育課ですが、260万という金額が3か所ありまして、3ページの6番目の事業の内容は違いますが、2ページのほうは幼稚園における伝承遊び、祭りごっこ等で、次が大正琴、それから4ページの下から3番目の保育活動の、この3つで、260万になっていますが、お金がどういうふうにかかるのかなど。あまりかからないのではと思ったのです。

【議長】 これは教育委員会の方にお答えいただけるのであれば。この260万は同じ事業科目で、260万なのか。3つに分かれてそれぞれ260万を計上しているのか。

【委員】 たぶん3つとも同じだと思うのですが。合計3つで260万だろう。これはボランティアグループに頼んだり、屋台舞台にかかるのでしょうが、毎年作らないのならばそんなにかかるわけでもないだろうし。

【事務局】 この事業に直接は関わっていないので、内容は詳しいところまでは分かりませんが、幼稚園、小学校、中学校の事業の1つの中に細分化されたものが色々あります。番号でいいますと1-3-1の事業の中で割り振って細分化したものをそれぞれあてはめているので、合計金額については、経常経費という事業の大きな括りでここに計上しています。これをそれぞれの分野にあてはめると、もう少しきっちりした金額が出てくると思う。たぶん担当課では、事業ごとに書いているので、その事業を同じものごとに金額を再掲している考えで書いていると思う。

【委員】 金額は再掲だと思う。ただ3つともお金はかかるのだろうか。

【議長】 3つだけでなくもっとあるかもしれない。

【事務局】 確かに大きい事業が1つありまして、それが100万円で、その中に細分した事業が5つほどあった場合、それぞれの事業に金額の大小はあるだろうが、10万の事業と30万の事業はあるだろう。事業を合算すると100万円になるだろう。それを中で事業ごとに振り分けているのだろう。事業ごとに大きい事業、小さい事業など細分化したものが分かりやすかったかもしれない。

【委員】 質問の趣旨は、もう1つあります。前回にもお願いしたが、文化に関する総額を高砂市がどれ位かけているのかを知りたくて、24年度にいくら位で、25年度は文化のまちを目指すから5%増やしたとか、予算的には減っているがそれは維持しているから、比率が増えているのかなということも知れたらと思い聞きました。

【議長】 質問の趣旨の1つ目は260万もかかるのかどうか。もっと他にも事業があって全額が出ているので、個々にすれば金額は小さくなるだろう。2つ目は総額を出そうとするのに、同じ事業を何回も繰り返し計算されていけば正確なものを出ません。他のところをみると先ほどの説明の中に横棒をひいていて、合算だからでない、按分できないという意味では、予算の書き方がアンバランスである。今後調整する必要がある。

【事務局】 私も、ボランティアが気になっているところで、ボランティアはお金がいらぬのではという質問をさせていただいた。ボランティアで来ているから講師料は発生しないが、その前に準備品として消耗品がある。消耗品をこの項目だけに使っているかとなればそうでもない。画用紙1枚を買ってもいろんなものに使っている。事業ごとに分けることができないので、合計金額で入れている。きっちり分けることはできないから、幼稚園の場合は同額を入れている。保育所は、横棒になっているので、何とか金額を按分してでも出ないかと聞きましたが、そうすると文化の議論になりまして、保育所は朝から晩まで生活しているところであり、生活自体が文化である。地元の食材を使ったりすること自体文化であるので、事業すべてを按分することは不可能であるというのが子育て支援の考え方だったので、横棒にしています。

【議長】 委員が提起された文化予算はどれ位なのかという段階にそういったものを含めるかということに入るが、今ここではとりあえず文化に係るものを洗い出ししようということで、理解いただければと思います。

【委員】 5ページ3番目にポスターと並ぶが、それぞれに力を入れているだろうが、予算が違う。一番高いところで25万円使ったりしている。前年度予算、今年度予算ということで同じ割合だろうが、そうではなく他に3万でいけるのなら3万1,000円でいくという、それでいくのも1つの方法だろうし、もう少しかけたら啓発になるとも考えられる。同じようなことばかりでは、事業としてどうなのか。

6ページの下から4番目の都市政策課の「小学校での総合的な学習の時間」とあるが、「総合的な学習の時間において、まちづくり学習の推進を図る」と書いてあって、「推進」なのに24年度はゼロだから推進ではないのではないのか。事業の名称も総合的な学習の時間というのも事業ではなく、この事業では「まちづくり学習の推進」というのが事業名称になるだろう。7ページの下から2番目の生涯学習課のところで、25年度目標が「年2回から3回公開する」ということだが、予算は同じということは、維持費のことになるのか？

【事務局】 おっしゃるとおりで、維持管理経費を含めています。公開は日数的には24年度、25年度正式には年1回だが、あとは随時まちづくりのグループや小中学校の歴史教室で使っている。主には維持管理経費です。

【委員】 8ページのところで下から6番目で、生涯学習課のところですが、事業概要が案内板を設置するのですが、予算がゼロだが、設置するのに予算はゼロというのはどういうことですか。

【事務局】 指定文化財というのは、文化財審議委員会にかけてそれから教育委員会に承認をいただくということとしているため、年間に何回出てくるのか分からない部分もございます。もし今年出た場合、何件指定文化財を登録したかを受けて翌年度に予算を計上して、標柱を設置することになる。今年1件曾根天満宮で申請がありました。来年度1本標柱を建てることになります。

【議長】 事業としては、立てておかなければならないのですよね？建てないときには予算がゼロというわけですね？

【事務局】 はい。

【委員】 10ページの上から2番目の市民活動推進課のところですが、前年度に成果として26団体という実績があり、そうすると25年度はここに団体数か使用日数があげられるのではないかと思いました。

【議長】 目標値をどう設定するのかということ考えてなければならぬ事例ですので、数字であげると評価をしやすいということもいえます。芸術活動の向上を図る目的で展示の場として提供するのだから、提供する日数や回数は書けるのではないかという意見は大変貴重だと思います。

【委員】 11ページの下から2番目ですが、目標に「企業の近隣の保幼小の参加を呼び掛ける。」とあるが、保育所という子育て支援室のほうが呼びかけているのではないか？

【議長】 どのような扱いになっているのか？企業主催の芋掘りなのに、子育て支援室だから市長部局、もう一つは学校教育課だから教育委員会だろう。同じ事業を2つの課で担当しているのだろう。実質的には中で役割分担をしているのだろう。同じ事業を複数課でまたがっていることもあるだろうから、そういうところをどう考えるのかという問題がある。

【委員】 一番下の文化スポーツ課の横棒が入っているのだが、ここもどう紹介するかということで目標設定できるのではないか。例えば広報誌に年何回ということ、周知の機会提供ということであれば設定できる。目標というのは、何らかの形で数値化できるだろう。前年度からやっているのに随時と書いているのはどうなのかと思います。12ページの一番上も同じで、横棒だが、何らかの形で目標設定できると思う。17ページの産業振興課の下から2つですが、同じ金額なので、同じ予算内ということ考えていけばいいと思う。目標に関していえば1番最後にくてんのところで、例えば出店回数を入れるとか、何位以内を目指すとかいう目標を入れることが出来るだろう。

【議長】 ありがとうございます。予算計上の仕方の問題、目標値の立て方の問題、同じ事業を複数課で行う場合、あるいは同じ課だが複数事業が重なっている場合など、文化をどういう切り口で切っていくのかという課題が事業ベースで評価するときに難しいという紹介でした。できるだけこのあたりは個別で見ていくのがいいのですが、時間も難しいので、説明のときにそのあたりが分かればいいと思います。

【委員】 説明に関しては担当課の成果としてやっているもので、事業の名称の中にですね、ネットワーキングではないけども、複数入れていき、金額は1本にする。私は、金額で追っていき、同じことをあげていた。事業の名称であげるとすごい分かりやすい。最後に担当課をあげればいいと思う。

【議長】 担当課ベースではなく、事業ベースであげればいいということですね。事

事務局はこのあたりどうでしょうか。検討していただけますでしょうか。事業という切り口でいくと、委員が指摘した課題も解消できると思う。

【委員】 事業ベースでやると担当課どうしが集まりますでしょうし、どういう予算配分をするのかなど、いろんなアイデアが出てくるだろう。

【委員】 7ページの下から2つ目ですが、申義堂は今、土日祭日開いているので、年3回ではない。入江家は年1～2回公開しているので、申義堂と入江家は別に分けたほうがいいと思う。入江家を見に行きたいのにいつも閉まっているから、申義堂と同じようにシルバーなどを使ってもう少し開けてもらえたら市民も喜ぶだろう。

【議長】 そういうニーズがあるということで、承知いただき、26年度の事業を進める上でお考えいただける機会だろう。

【事務局】 先程の件と委員のご意見に関連するのですが、2,805千円の金額は申義堂と入江家の両方の維持管理経費です。同列に扱っていますが、入江家はまだ完成していないので、そのあたりご理解ください。

【委員】 10ページの市民活動推進課のあいぼっとの活用の成果のところ、26団体が使っている。あいぼっとの使用は2週間がワンサイクルで、1回借りたら2週間使える。26団体ということは1年通してずっと使っている、全然空きがないので、これ以上増やせない。他にあいぼっとに代わるスペースを市のほうで確保してもらえればと思う。申し込んでも何か月も先になってしまう。

【議長】 使用団体実績だけで評価をするのではなく、開会日数とかを成果なり目標に掲げると26団体でほぼ埋まっているというのが分かる。書き方で年間26団体しか使っていないと思うが、26団体が2週間使っているから埋まっているのが分かる。成果の書き方にも工夫がいる。

【委員】 テーマ別にいれるということが、今の市役所の仕事のやり方の中でできるのかどうかという問題と、260万という予算の中で、それが予算をとってくるための予算と実行するための予算という中で個別のものを入れるとやりにくいということがあるのかもしれない。検証する以上3つか4つかで1つが250万使って、あと10万の事業のことは検証できないという理論は腑に落ちない部分がある。

【議長】 事業ベースで切り分けることができるでしょうか？事務事業番号は基本的

に担当課ベースでつけていますよね？

【事務局】 同じ事業を一緒にするというのは可能だろうが、予算に関しては難しい。それぞれの金額を出すのも難しい。幼稚園のところでは、もっと他の部分が入った予算かもしれない。そうなれば横棒になってしまう。

【委員】 予算がたくさんで文化のまちにしてほしいという思いがあるので、予算を削減されることはあったらダメだと思う。片方で委員がおっしゃったようにそれが有効に活用されているのかどうかということにこだわりを持って検証したい場合、少なくとも260万の予算については一緒に検証できるようにしたい。

【事務局】 260万という幼稚園部分を寄せるのは簡単ですが、すべての事業を金額ごとに割り振るとなれば難しいです。総額ベースじゃないと意味がないということですよ？

【委員】 責めるわけでは言っていないのですが、委員が気を使ってそこまでは言及されていないので、260万というのが一緒なのかどうか分からない。私はなぜいるのかといえば、例えば謡曲「高砂」の振興にいくら予算がとられていて、講演会に使われているのか、教育に使われているのか意見を述べたいのにそこがわからなければ話ができない。例えば行政の在り方において、そうやると予算配分がとりにくくなるということがあれば、この話をしたらややこしいなと思い委員は言われなかったと思う。

【事務局】 文化の切り口というのは非常に難しい。予算の割り振りのところでもいえる。予算は、目的別にとるので、文化ということになれば、文化予算を純粹に言えば文化スポーツ課の予算になる。他の課が出してきているものは主目的が当然あるが、その中に文化要素が含まれているものを洗い出せと指示を出しているので、そこでの按分というか額ありきで集めてくるのは難しい。1つをターゲットに寄せることは各課でできるが、例えば保育園は横棒でいっているが、260万は集まったが保育園のところは横棒のままとなれば比較対象にならないという懸念もあるので、そのあたりどうさせていただいたらいいのか意見をいただきたい。

【議長】 どうやって検証するのかといえば、備考欄を設けて説明をプラスすればよい。もう一つはこれは今後のことだが、すべての事業をチェックするのは大変なので、今年度は細かく見るところはいくつか設ける。例えば今年度は謡曲「高砂」を細かく見るので、担当課に来てもらい議論ができるようにするとかして、2年ごとの目的との整合性を見るときには必要かなと思います。目的ごとの整合性を

見るときは担当課に来てもらい、いくつかの事業をピックアップしてみれば委員のおっしゃるお金と成果の話が連動するだろう。今年は目標との整合性だけが、来年度目的との評価をするときは委員が考える満足いく形になるだろう。

【委員】 実施計画書の24ページの生涯学習課の「後援申請の案内承認」ということですが、予算書、決算書を提出するということだが、提出されたものに対して審議はされているのですか？

【事務局】 審議しております。

【委員】 審議によって、後援を取り下げるとか。後援をするという時点では、予算書ですよ？

【事務局】 後援の場合は、まず予算書を出してもらおう。終わりましたら事業報告と決算書を提出してもらおう。予算書を出してもらった団体は、決算書を提出してもらおう。後援申請の要綱が教育委員会の中でありまして、教育委員会で諮って教育委員会が許可したのものについては、後援申請を出すという形です。

【委員】 予算書がないものも後援申請ということであるわけですか？

【事務局】 あります。無料の場合です。例えば、スポーツの大会やこどもの大会は、要綱の中で合致していれば、教育委員会は認めます。

【委員】 有料の場合は必ず予算書を提出しなければならないということですね。私が以前申請したときに、申請書の中に下記の条件を満たすものということで、どういう条件かを見れば、チラシを添付することとなっていました。他のところで条件を満たすものといえば、チラシやプログラムは当然のことで、非常に高いハードルという気がした。条件にチラシを添付することという一文はいるのだろうか？

【事務局】 取り方だと思うのですが、どの団体も終わればプログラムをつけてもらう。申請するときはプログラムが出来ていないので、前年度のものをつけてもらう。内容がわかるようなものを添付するという目安ですので、きっちり読んでいただくのは、私たちとしてもありがたいですが、平たく言えばそういうものを付けていただければ結構です。

【議長】 文化というのは柔らかいところもあるので、硬いものばかりではない。お役所仕事に合わないものもたぶんあるだろう。そこらへんをどうやって調整して

いくのか。おそらく市役所の用語というのがあってそれを使われているのだろう。

【委員】 市の場合はその文章はない。他市も条件を満たすものという硬い文章はない。高砂の教育委員会だけ入っていて、何の条件なんだろうと思ってしまう。

【議長】 入口を少し変えるだけでも、もしかしたら参加したい団体も増えてくれば、それは文化振興に役立つ。

【委員】 60周年記念事業についても、きちりとした計画をつけないければ申請できないということだったので、何もできなかった。

【委員】 25ページの文化スポーツ課の公益財団法人高砂市施設利用振興財団との連携とあるが、何か具体例はありますか。

【事務局】 高砂市文化連盟に属する菊友会という団体がある。菊友会でやっている事業は財団と何かできないかと話をしたり、財団が行っている事業で文化連盟の団体と何かできるものはないかという問い合わせがあるので、連携したり協議の場を持ってたりしています。

【委員】 27ページの宍粟市と高砂市の関係は何ですか？

【事務局】 宍粟市は、昔、高砂の家というのがありまして、交流があったのですが、今は市どうしの交流はありません。しかし、そのときからのつながりは大事にしておりまして、宍粟市にある楓香荘の紹介や、宍粟市が行うイベントの紹介を広報誌に掲載しています。また、高砂市民が楓香荘に行くときに特典を設けています。

【委員】 28ページのバス旅行ですが、現状の参加者はどの位いますか？

【事務局】 そのときによって違いますが、だいたい100名前後です。前回はバス3台ほどで行きました。団体で申込みをされるときがあり、その団体が来なければ人数が減るときがあります。

【委員】 個人的な意見だが、謡曲「高砂」を前面に出すということで、謡曲「高砂」を何回も目にします。高砂高校で頑張っていることで、ジャズを万灯祭で演奏しますし、若い人たちはポップスの祭典が浜のほうでありました。民謡大会も目に入りました。しかし、クラシックが全然目に入らない。文化芸術ということで、高砂市はクラシックはいらないのかというさびしさを覚えます。そのあたりは市

として取組みをしていただけるのかどうか？

【議長】 26年度の事業を話す段階で意見をいただければと思います。

【委員】 これは市役所から見た活動だと思います。文化は市民が活動しているというのが目標ですよね。市民の活動の姿が見てみたい。神戸新聞を見ると、あなごや委員の記事や工楽松右衛門の記事が出てます。メディアを利用して目にみえる形で積極的にしていただけたらと思います。

【議長】 市民からの視点というのは、先ほどから出ている目的との評価に関係してくる。市民からの評価というものがあればよいが、今は参加者などの実数しかないので、評価していかなければならない。他はないですか？25年度の事業については、以上にします。

(3) 平成26年度事業について

【議長】 続いて26年度の事業について説明をお願いします。

【事務局】 26年度事業につきましては、A3の資料の右端26年度の列をご覧ください。

まず、26年度につきましては、予算も確定しておりませんので、すべてまだ案であることをご了承ください。

平成26年度は高砂市制施行60周年の記念の年になります。60周年の記念イベントを中心にご説明いたします。

資料1ページ下から2段目をお願いします。高砂市史完成記念「高砂学」番外編ですが、市史の第7巻が26年度中に刊行予定であり、60周年と市史刊行終了を記念して、基調講演とパネルディスカッションを文化スポーツ主催の「高砂学」の番外編として開催いたします。

次に、資料4ページをお願いします。一番下の段の子育ち応援フェアについては今年度の拡大版ということで市制60周年に合わせ、60歳の方とふれあったり、市の愛唱歌を創る予定です。

次に5ページの下から2段目、ラトローブ市との姉妹都市交流ですが、ミュージックバンドを受入れる方向で、ラトローブ市と調整しております。

次に9ページをお願いします。上から3段目の日本三奇パートナーシップですが、日本三奇として知られる塩釜、石の宝殿、天の逆鉾をPRするため、塩竈市、高砂市、高原市の観光協会が日本三奇パートナーシップ協定を締結する予定です。

次に同じページの日本三奇の下段、謡曲「高砂」のCD配付ですが、謡曲「高

砂」の普及のため、市民課窓口で婚姻届を出された方に謡曲「高砂」のCDを配付いたします。

次に、資料10ページをお願いします。文化まつり事業ですが、これは文化連盟が毎年行っている文化まつり事業において、規模を拡大し、高砂ゆかりの人物をテーマに事業を展開するなど、より多くの人に楽しんで頂ける内容で開催いたします。

次に13ページをお願いいたします。上から3段目、旧入江家のパンフレットを作成する予定です。

次に15ページをお願いします。下から3段目ご当地博ですが、高砂市の歴史産業の展示やブライダル関連のイベントを同時開催する予定です。

次にその下の段、しあわせ高砂映画祭ですが、これは高砂フィルムコミッション主催で、自主制作の映画を上映するとともに、高砂町で特産品の販売等を行う予定です。

続きまして、16ページをお願いします。4段目の東はりま文化団体連合会事業として、来年度は高砂市が開催地となっている東はりまコーラス大会を60周年事業として開催いたします。

次に、その下の段、兵庫県いけばな展につきましても、来年度高砂市が開催地となっており、60周年記念事業として実施いたします。

最後に18ページの一番下、道路愛称名付与事業ですが、市内主要幹線、準幹線道路8箇所、公募により愛称をつけます。

26年度の主な事業は以上でございます。

【議長】 60周年ということもありまして、新規事業を中心に説明をいただきました。それ以外でもいいですし、考え方なども含めて何かありましたらお願いします。

【委員】 謡曲ですが、今日もATPの全体会がありまして、そこでの意見を集約するなかで、来年の事業に間に合うかどうか分かりませんが、謡曲「高砂」のCDを作っていて、それを幼稚園、保育園の方に覚えてもらい、将来ふるさとを愛し、自分の財産にもなるようにやってもらいたいということが1つで、2つ目は姫路ではご当地のお酒を乾杯に必ず使うという条例ができたので、高砂市においてもすべての会合、会議のスタートは謡曲「高砂」で始まるという条例を作りたいという案が今日出ました。こういったことが盛り込めるかどうか。また3つ目は先ほど愛唱歌という話が出てましたけど、高砂市歌がどうも今の時代に覚えてみんなで歌うという内容でもない気がするの、見直しができないのか。

【議長】 3つ意見が出ました。1つ目はアートタウンプロジェクトのほうで、謡曲「高砂」を謡えるようになってほしいということで、CDの配付をするというこ

とで、CD作成の事業はあるから、配布先の議論ができるということによかったでしょうか？

【委員】 学校で覚えてもらうということです。

【議長】 2番目は謡曲「高砂」を謡う条例を作ったらどうかということですね。1点目はどうですか？可能性はありますか？幼稚園では、年間の教育計画を作らなければならないので、作っている頃だと思いますけど。こういうご意見についてはどうでしょうか？

【事務局】 小中学校でしたら総合的な学習の時間に入れることも考えられるが、カリキュラム的にタイトになっており、やはり年間に入れていくというのは、私の立場からはお答えすることができません。幼稚園については現在謡っている幼稚園もあるので、弾力的にできるのではないかと思います。私は担当ではないのでここで出来る、出来ないを申し上げにくい部分がありますが、私としては企画的には面白いと思います。

【議長】 文化振興審議会委員として、事業計画の1つの提案として、来年度の幼稚園教育の事業の中に謡曲「高砂」を導入するという事業が始められないかという意見でしたので、担当課に議論いただきたい。

【委員】 今の話に関連するのですが、例えば時間としてとれない場合は、CDの配布ということでしたが、食事の時間にバックで謡曲「高砂」を流したりするなどであれば、時間は関係なくできると思います。

【議長】 教育プログラムに入れる以外にもそういった方法があるのではないかと思います。先ほどいった幼稚園の事業の中に謡曲「高砂」を入れる事業を推進したらいいのではという意見ですね。

【事務局】 いま頂いた意見は教育委員会に関係するところは報告させていただき、検討いただきます。出来る、出来ないについては回答できませんので、検討した中で返事していきたい。

【議長】 2番目の条例化はどうですか？先ほど会議のときに必ず謡おうということでしたが、制限や罰則を設けるものではなく、そのあたりはどうですか？

【委員】 そういう意見が多くなると市の条例になるのは難しい。最終的にここまで持ってこようと思うならば、そうせざるを得ない部分はある。5時頃に家に帰り

ましようとして放送が流れていますが、授業が始まるまでに「高砂市歌」を流したり、謡曲「高砂」を流したりすることはできるので、浸透していけるだろう。習慣的に行っていくのがよい。

【委員】 本当に取り組もうと思うならば、しっかりやらないといけない。CDを配付したところで聞かないだろう。普段忙しい生活の中でわざわざ謡曲「高砂」をかけることはしないので、普段の生活をしながら自然に聞こえている状況を作っていくといかないとなかなか難しい。

【委員】 近くに教会があり、朝7時にチャイムが鳴り、12時に鳴っている。どことなく入ってくると自然と覚えてしまう。

【委員】 高砂のまちに入ったらどことなく聞こえてくるということでしょう。

【議長】 いずれにせよ、条例化であればそういうことを裏付けることになる。条例になるためには、議員提案と市長提案の場合があると思う。市長提案の場合練り上げていく可能性はどれ位あるのかということと、もう一つは議員さんに働きかけてやるという方法もあるだろう。

【委員】 それは動いているという話は聞いている。

【議長】 議員さんから問い合わせがあれば、前向きに対応いただく。市長提案でもっていく場合には練り上げるのに時間がかかるだろう。

【委員】 覚えてもらうのと、披露する場がなければ覚えられない。披露する場があれば、自分が覚えなないといけないという気になる。高砂の絆を作っていくという観点からもワンパックで、会議所ではすべての会議のスタートは高砂と四海波で、終わりは千秋楽で終わる。今もこのパターンになっており、いちいちコピーしているともったいないからファイルを作った。それを机の上に置き、それを見て謡う。情けないと思う人はCDで練習をする。そういうパックになっている。審議会でもそういう形でやっていただいたので、感激した。あってもなくてもやっていくということですが、全市民を巻き込むという意味では法令化をする。謡う場がなければ覚えられないので、パックにして欲しい。

【委員】 謡う場というよりも、月の沙漠が2時半に鳴るのだが、みんなそれを覚えていると思う。だから毎日流すというほうが大事だろう。それを2時半にやっているから、ではどの時間帯にもっていくのかなど、市のほうでどんなふうに取り組めるか考えていただかないといけない。

【議長】 覚えてもらうために流すということと、もう一つは覚えるインセンティブをもたせるために謡う機会を設けるという両面でやらないとなかなか高砂は浸透しないというのは共通の認識だろう。

【委員】 ATPの会議で出たのだが、今、市の電話の待ち受けは月の沙漠です。高砂という考え方の中で、もし文化振興審議会が謡曲「高砂」をシンボルとしている場合、2兎を追うのもいいが、1本でいきませんか。市のほうも待ち受けで謡曲「高砂」を流したりする。内々はいいいが、対外的にPRするのは1本でいかないと、色々あるとピンボケしてしまう。

【議長】 市歌のところですが、具体的に何かありますか？

【委員】 市歌を歌おうと思っても歌いづらい。

【委員】 昨年コンサートで歌いましたが、大人になっている方はなつかしいなと思われてました。今の子ども達は歌う機会があるのだろうか。何のための市歌になったのかと思う。

【議長】 いつ位に出来たのでしょうか？

【委員】 昭和30年代だろうか。

【委員】 割と回転する音楽だから、のりやすい。本当にやろうとするのだったら、現場で時間がないことはない。やる気になれば歌える。全市でとりあげてみんなやっていくという気持ちになればできないことはない。今の市歌はあまり歌いやすくないのですかね。

【委員】 昭和30年代の高度成長期の工業都市のイメージで新春交礼会に流れるときに雑音で流れるので、何なのか分からない。60周年ということであるならば、未来に向かって躍動できるようなものを検討いただきたい。

【議長】 検討する機会を設けるといことですね。実際市歌がいるのかどうかを考えたほうがいいのかと思う。どのまちも実は昭和30年代に流行った時期があり、市歌をたくさん作った。それを歌い続けているまちはほとんどないので、本当に必要かどうかを含めて、検討する機会を作ったらいいと思う。

【委員】 高砂市観光協会が作った「ブライダルシティ高砂」という歌はいいものだ

と思うので、市歌が歌いにくにののであれば、それをもっとみんなで歌えばよいと思う。

【委員】 23日に高砂市吹奏楽団の第30回の定期演奏会があるが、そういった機会に市のほうから働きかけてもらい、どんどん市歌を聞いてもらう機会を作られるとか、録音するにしてもいい音で録音しなす。今の時代にあった市歌を作るのか、市歌はいらないのか。ありながら全然活用されていないと思う。合唱連盟のほうでは、結構月の沙漠を歌われているので、1本化となれば謡曲「高砂」よりは月の沙漠の方がよく歌われているかなと感じる。どちらかを削るとするのは難しい。

【委員】 内々はいいのだが、外へ発信するときはこのまちを活性化させたいという思いがあるから、外から来てもらうのに月の沙漠の作曲者が生まれたというよりも、まさしく高砂が印象づけられる歌があるのだからそれを発信できたらと思う。

【議長】 市歌は今の録音状態とか、どういう状況でしょうか？

【委員】 音源は同じである。

【議長】 公民館や学校にもあるしということで、どこか1つに音源があったのだろう。検討するという機会を設けたらというご意見です。

【委員】 60周年をしていくのだが、商工会議所が観光を盛り上げていきたいといわれていましたが、食べにいく場所などをPRしなければならぬと思います。できればそのあたりをお願いしたい。

【委員】 かつめしとにくてんのマップはある。穴子はどうだろうか？

【委員】 出来ているので、次回お持ちします。

【議長】 あといかがでしょうか？

【委員】 ぜひやっていただきたい事業なのですが、4-1-1になると思いますが、事業名称が「ギネスに挑戦」です。事業の概要が60周年を記念して60個のギネスに挑戦をする。事業の目的は世界に高砂ありとPRすることで、市民が自信を持ち、新しいことにチャレンジする文化を育てる。目標はギネス60個です。都市で60あるのかどうか分からないが、有名になると思う。高砂市に興味を持ち、自信を持つと思う。ご当地博では、人数が集まると思うので、探して挑戦し

てもらえたらと思う。

【議長】 60個を探すのは難しいと思うのですが。

【委員】 それは目指すということで、60個探せるかどうかもあるので。夢のシロ事業にも応募しようと思ったのですが、時期が間に合わないと思ったのでとりあえず発信できたら、誰かが食いついてくれないかと思って。

【議長】 商工会議所も絡んでくると面白いのでは。今から事業化するのはできるかどうかですが、検討してもらえればと思います。ギネス記録は個人もあれば団体もあるので、多様ですので、可能かどうか分かりませんが。

【委員】 この場では謡曲「高砂」が盛り上がっていますが、先日文化スポーツ課の会議のときに謡曲「高砂」を最初に謡おうとしたら、私は絶対に謡わないという人もいたので、市民に浸透していない。先ほど小中学校でできるだけ謡おうということでしたが、PRの方法をもっと考える。市民に文化振興審議会でこんなことをしているということを周知する方法を考える必要があると思いました。

【議長】 今のところ行事において謡曲「高砂」を活用すると書いていますが、もっと何かないかということですかね。

【委員】 先ほど委員がおっしゃったように対外的に謡曲をとくと月の沙漠もとなるし、詩吟をしている人はなぜ謡曲となる。ですから佐々木すぐるさんのほうも納得してもらい、詩吟の人にも了解を得て協力してもらうことが大事だと思います。

【議長】 方針を立てるだけでなく、具体的にどうやって進めていくのかという中に、やはり全員賛成というわけでもなく、反対もあるだろう。そこに対しては説得しなければならぬだろう。これからの高砂市において知名度をあげたり、対外的に知名度をあげるために必要ですなど説得して計画の中に反映させていければと思う。

【委員】 保育園、中学校にも合唱団の人が謡いに行ってくださっているのだが、実際子どもたちの反応はどうですか？

【事務局】 文化スポーツ課の事業で能楽入門を今年から実施しています。そこでいきなり歌える小学生がいて、能楽の先生が驚かれました。さすが高砂市だなと言われました。やはり学校の「ふるさと高砂学」という授業の一環で謡曲の練習を

されていた成果が出ていたのと、もともと事業に参加しようという興味のある子だったからなのかもしれませんが、声はよく出ていました。文化スポーツ課で子ども狂言ワークショップを保育園、幼稚園児を対象に行い、そこで謡った子どもが謡えていたということがありました。いい効果も出ている。アンケートにも1回きりだけではなく、何回か受けていきたいので教室形式でももらえないかという声もあり、来年度検討していきたいと考えています。

【委員】 保育園ではすごくいい評価だが、これをみると1ページの下から3番目ですが、中学生はB評価になっている。そのあたりはどうか。

【議長】 先ほどの評価の説明は幼稚園、保育園でしたが、中学生はということですよ。

【委員】 複数回が1回しかやっていないからでは？

【委員】 小学生は演奏に行っても盛り上がるが、中学生は反応をすることを抑える。声を出さない年齢である。

【議長】 反応がよければ複数回やるが、1回2回で終わるということは、あまり反応がよくなかったのだろう。

【委員】 幼稚園、小学校低学年からやるのでなければ無理だろう。中学生は校歌でさえ歌わない。

【委員】 いきなり中学生でやるよりは、小さいときから慣れ親しんで歌っているからこそ歌う。今から育てるということで、小さいお子さんからというのがよい。大人は目的があればそれに向かって頑張る。

【委員】 狂言の教室も参加したいと思うのだが、時間と曜日が決まっている。夜の時間がない。いろんな時間にしてもらえるほうが参加できるときもあるだろう。

【議長】 ニーズをどうとらえるかだと思う。

【議長】 対象者を勤労者にしぼっているわけではないということですよ。

【事務局】 子ども対象のものは、夏休みにさせてもらった。大人の方の夜はやっていない。

【事務局】 講師の先生の日程に合わせているので、今後の検討課題としたい。

【委員】 ご年配の方とか仕事を退職された方でないと参加できない。行きたいという声は聞くが参加できない。

【議長】 勤労者への幅をどう広げていくかはご検討していただくということにする。検討しなければならない点は、担当課を含めて検討してもらおう。

6. その他

(1) 各団体の活動報告

【議長】 その他ですが、各団体の活動報告ということで、近々行われるイベントなどがあればご案内をお願いします。

【委員】 来年12月21日に高砂演奏連盟主催で、能の装束を飾り、高砂の謡曲にあわせたようなイメージで曲を作りました。ピアノと尺八で日本舞踊の方に踊ってもらいます。中学生、高校生の吹奏楽と、マリンバ奏者による播州のまつりをイメージした作品を作り、演奏します。

【委員】 高砂市美術協会では、来年60周年ということで福祉保健センターと文化会館のホワイエを使い、今までの先生方の作品や現在活躍されている先生の作品を展示しようということが決まっています。

(2) 今後のスケジュール

【議長】 市のほうで何かありますか？

【事務局】 60周年記念事業を中心に、また今年新規事業でやったものは、引き続きやっていけるものはやっていきたい。高砂学という講座では、市民講師に新たなテーマで講演してもらいます。

【議長】 続きまして、今後のスケジュールについて、事務局から説明願います。

【事務局】 平成26年度の文化振興審議会につきましては、毎年11月に開催させていただきたいので、来年度は日程調整のうえ後日連絡させていただきます。その間については、議事録や作成し直した資料を送付します。

【議長】 来年度は目的に対する評価もでてきますので、またお考えいただかなければならないと思います。

【委員】 市民アンケートについては、27年度からでしたよね？

【事務局】 市民からの意見を聴く場はアンケートが一番いいと思っています。

【委員】 アンケートは作為を持ってイエスにしやすい、ノーにしやすいなどがあり、そのあたりは注意してもらいながら、事前に送ってほしい。

【事務局】 どういった内容で、どういった項目でアンケートを実施するのかこの会の中でお聴きして作っていきたいので、ご協力をお願いします。

【委員】 図書館ができるということですが、文化振興に関わるスペースを設けてほしい。拠点が今ない。文化専門の固定したスペースをぜひお願いしたい。

【事務局】 そのあたりのことは、十分担当は考慮しながらやっています。今は基本設計、実施設計を終えて、平成26年度から工事になります。郷土の偉人のコーナーを設けて欲しいという要望もあります。限られたスペースの中で工夫をさせてもらいます。

【委員】 文化連盟も横のつながりがなかなかできない。

【委員】 市内でこういう高砂の文化遺産があるということを見てもらう場所がない。やはりどこ行ってもあるので、絶対必要だろう。

【事務局】 ご期待にそえるスペースになるかはわかりませんが、一応多目的スペースを設置すると聞いております。

【委員】 基本設計はできているという話ですが、この資料の中には入っていない。

【議長】 図書館自身がまだできていない。イベントなどをしてくれば入ってくるだろう。設計費を入れると設計費が文化なのかという話にもなる。図書館は文化そのものの拠点だから、スペースなりイベントができてくればここにのせてくるだろう。

【委員】 バリアフリーというが、当事者が使うと案外使えないことが多い。そういう点でいえば学者という先生だけではなく、市民で本当に活動をしている方を入

れて欲しい。

【委員】 高砂市内で様々な公民館活動をしている。その活動の中の作品を展示するところが公民館にある。公民館も利用して、市民に見てもらうこともできる。

【委員】 確かに公民館活動で作った作品をその公民館で展示しています。

【委員】 公民館を市民が利用できなければならない。

【議長】 公民館活動は確かに公民館で展示しているイメージがある。

【委員】 通路に吊環があって中の活動には影響ないのでそういったものを利用してはどうか。

【委員】 高砂町内では古民家を活用して展示しているところもある。高砂町内にある古民家を改造したら面白いものができるかなと思う。あいにく駐車場がないところもある。

【委員】 万灯祭では米蔵を使ってコンサートしていたが、お客さんが入り切れず、暑い中駐車場もなかった。飾磨や網干には図書館にホールがあるので、何かできるスペースがもう少しあればと思う。播磨町の図書館では紙芝居を読みきかせたりもしており、市民が気楽に発表できる場が高砂には本当に少ない。

【委員】 大人だけでなく、子どもが集えるスペースを確保してほしい。

【議長】 図書館は基本設計ができ、おそらく今後運営をどうするかが問題で、実際にかかわる方が入るといのが運営のやり方を考えていくほうがよいので、教育委員会でも考えてもらえたらと思う。

【事務局】 担当に伝えます。

7. 閉会

【議長】 それでは、本日の予定議事はすべて終了いたしました。では最後に、副会長から、閉会のあいさつをお願いします。

(副会長あいさつ)

【司会】 それでは、これにて閉会いたします。ありがとうございました。